

「データにちょっとひと手間を」

一般社団法人 日本予防医学協会
健康情報分析研究室 理学療法士 谷 直道

先日、政府の新型コロナウイルス感染症対策本部で緊急事態宣言の延長が決定され、福岡県も9月30日まで延長されることが決まりました。テレビや新聞では、日々、新規感染者数や病床使用率などが発表されており、毎日〇〇率□□%や、予測値、グラフなどが報道されています。

さて、皆さんは福岡県のホームページに新型コロナウイルス感染症に関するページがあるのをご存知でしょうか？このページには福岡県が独自に設定した指標で発動する福岡コロナ警報と特別警報に関する情報が掲載されています。

例えば、福岡コロナ警報の指標ですが感染拡大時には病床利用率 15%以上、重症病床使用率 10%以上、新規陽性者数が3日間移動平均で100/日以上に増加（または7日間移動平均の増加傾向が継続）といった内容が記載されています。思わず読み流してしまいそうですが、“移動平均”という聞き慣れない単語が出てきたことにお気づきでしょうか？

先ほども触れましたが、皆さんも様々な媒体で「縦軸が感染者数、横軸が日にち」で作成された新規感染者の推移を示した折れ線グラフをよく目にしていると思います。この折れ線グラフは1日ごとに上ったり、下がったり、上昇下降を繰り返しながら増加傾向あるいは減少傾向の推移を辿ります。このように“上ったり下がったり”の折れ線グラフはギザギザしていて短期的にどのような傾向になっているか掴みにくい場合があります。このような場合に過去のある一定期間の傾向を掴むために“移動平均”を活用するわけです。先ほどの福岡コロナ警報の「3日間移動平均」であれば、過去3日間に発生した陽性者数の平均値を計算します。例えば、9月10日に過去3日間の移動平均を計算する場合は、9月9日の陽性者数に9月8日と9月7日の陽性者数を足して3で割ると3日間移動平均が算出されます。このように移動平均で求めた数値結んでグラフに示すことで、“上ったり下がったり”のギザギザした折れ線グラフではなく、滑らかな線でグラフを作成することができ、傾向を掴みやすくなります。このように、もともとのデータにひと手間加えて図示することで、より直感的に理解しやすくなります。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症のパンデミックでは、これらのいわゆる疫学的・統計学的な指標や予測値などデータを元に様々な対策が検討されてきたことはいまでもありません。また、これからは感染症だけではなく保健医療福祉に関する様々なフィールドで、より一層データを活用した計画や政策

がでてくることでしょう。私も、ひと手間かけられたデータを正しく理解できるよう、コツコツと勉強していこうと思います。